

- 国内金利** : もみ合い
- 株式市場** : 方向感出にくい
- J-REIT** : 緩やかな上昇
- 外国為替** : 小幅な円高ドル安

日米主要経済指標、ご留意事項

マネーマーケットあらかると

全国消費者物価指数とコメ価格

日銀の政策目標となっている全国消費者物価指数(生鮮除く)の4月分が公表され、前年比+3.5%と前月の+3.2%を上回る結果となりました。上昇幅が拡大した要因の一つとして話題となったのは「生鮮食品を除く食料」の上昇幅の拡大で、その内訳のうち「米類」の上昇幅は前年比98.4%と大幅な上昇となりました。その他にもコメを起点とした調理食品や米菓、食料工業製品、外食などの価格上昇が目立つ結果となり、まさにコメ価格を主因としたインフレが継続していることが窺えます。

このような環境の中で、5月21日に農林水産大臣となった小泉氏はコメ価格高騰対策として行っていた政府備蓄米の販売方法を従来の卸売業者向けの価格競争入札から小売業者に随意契約で低価格で販売する方法に変更し、コメ価格を下げる取り組みを実施しています。コメ価格の下落は実質所得の改善をもたらす、個人消費にプラスに寄与するなど経済への影響が大きいほか、日銀の金融政策の判断となる物価にも大きな影響を与えます。政府が行った備蓄米に関する政策が経済や物価にどのような影響を与えるか今後も注目していきたいと思えます。(池上)

マネーマーケットマンスリーは経済、金利、為替、株価についての情報提供を目的として作成したもので、取引等の勧誘を目的としたものではありません。

また、金融商品取引契約の締結の勧誘に使用されるものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

※本資料の使用に際し、最終ページを必ずご覧ください。

(2025.5.29 作成)

資金証券部 TEL: 042-526-7740

国内金利

■要約&ポイント

- 5月の国内金利は大幅な上昇
- 米中の関税引き下げ合意により、経済減速懸念は後退
- 米関税政策を巡る不確実性は依然高く、今後も動向を注視

■5月の動き(1日～29日)

～上昇～

【変動幅】

1. 250%

～

1. 585%

5月の10年国債利回りは前月から大幅に上昇した。日銀金融政策決定会合において日銀が追加利上げに慎重との見方が広がったものの、米中の関税引き下げ合意により経済減速の懸念が後退し、国内金利は大幅に上昇した。

(29日時点の10年国債利回りは1.515%、先月末比0.205%上昇)

■6月見通し

～もみ合い～

【予想レンジ】

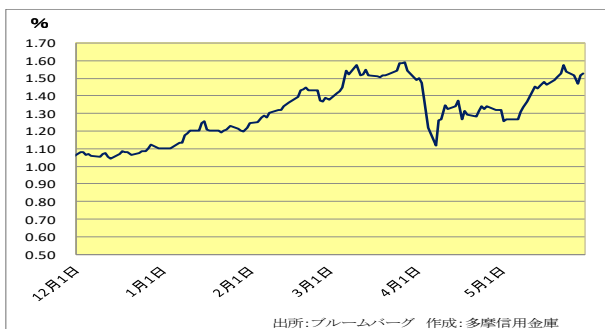
1. 350%

～

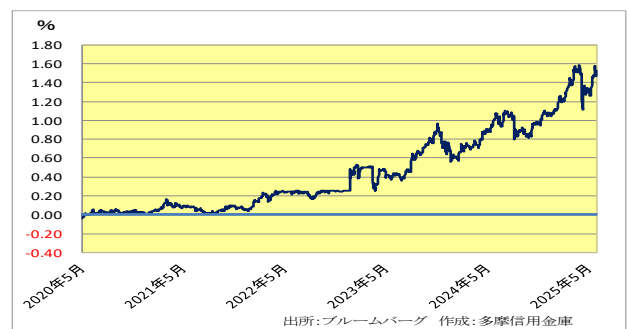
1. 650%

米関税政策の影響により、日銀が利上げに慎重な姿勢を示したことで市場では利上げ時期の後ずれが意識されている。しかし、米中の関税引き下げ合意のように日本への関税政策が緩和方向に向かえば、日銀が従来通り利上げを再開する可能性もあり、金利上昇への警戒感も残るだろう。そのため、米関税政策の不確実性が残るうちは国内金利の方向感が出にくく、もみ合いの推移を想定する。

【国内長期金利チャート(6か月)】



【国内長期金利チャート(5年)】



■今月の注目経済指標

～国内総生産 (GDP)～

2025年1-3月期における実質GDP成長率の1次速報値は、前期比▲0.2% (年率換算▲0.7%)と、4四半期ぶりのマイナス成長となった。設備投資は増勢を維持したが、物価高騰などの影響で個人消費が停滞したことや、輸入が前期の減少の反動などにより大幅増加したことなどが影響した。個人消費の弱含みは懸念されるものの、設備投資等が支える形で内需は堅調に推移している。GDP成長率は日銀の金融政策にも重要な影響を与えるため、今後も注視していく必要がある。

(平賀)

株式市場

■要約&ポイント

- 5月の日経平均株価は上昇基調で推移
- 米国の関税政策において改善の兆しが見られたことから、買い優勢の展開
- 6月の日経平均株価は方向感出にくく、もみ合う推移を予想
- 企業業績に対する懸念や米国の関税政策が重荷に

■5月の動き(1日～29日) ～上昇基調での推移～

【変動幅】

36,040円

～

38,494円

5月の日経平均株価は上昇基調での推移となった。米英貿易協定の合意や米中両政府が高関税を大幅に引き下げることを発表するなど、懸念される米国の関税政策において改善の兆しが見られたことから、株式は上昇基調で推移した。ただ、為替が円高ドル安に推移する場面や米国の財政悪化懸念が高まった際には下落するなど、月の後半には不安定な場面も見られた。(29日時点での日経平均株価は38,432円、先月末比2,387円上昇)

■6月見通し

～方向感出にくい～

【予想レンジ】

36,000円

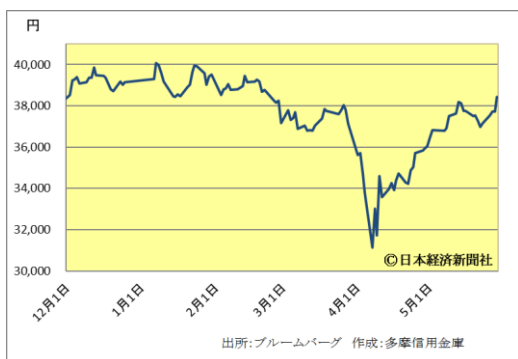
～

40,000円

6月の日経平均株価はもみ合う展開を想定する。上場企業の業績を確認すると、2025年3月期は純利益が4期連続で過去最高を更新した一方、2026年3月期については6年ぶりの減益予想となっている。関税の影響や為替が前期と比較して円高に推移していることなどを考慮し、業績の拡大は一服する見通しである。今後の企業業績に対して不透明感が残る中、日本株に積極的な買いは入りにくいだろう。また、米国の関税政策については二転三転している様子であり、先行きを見極めたいとの考えから、当面は様子見姿勢が強まるものと思われる。

一方で4月の急落後において、株価の回復スピードが非常に速かったことから、買い遅れている投資家が多いものと推測される。下落時には買いが入りやすく、株価を支えるだろう。それぞれの要因を考慮し、方向感が出にくく、横ばい圏での推移を予想する。

【日経平均株価チャート(6か月)】



【日経平均株価チャート(5年)】



(菊地)

J-REIT

■要約&ポイント

- 5月の東証REIT指数は前月比で小幅に上昇
- 金利上昇する場面でも底堅く推移
- 6月の東証REIT指数は緩やかに上昇する展開を想定
- 海外投資家の買いや自己投資口取得が相場を下支え

■5月の動き(1日～29日) ～小幅に上昇～

【変動幅】

1,708ポイント

～

1,755ポイント

5月の東証REIT指数は小幅に上昇した。月を通して方向感なく、概ね1,700ポイント前半で推移した。国内金利が超長期金利中心に上昇基調で推移する中でも東証REIT指数の下落幅は限定的で、1,700ポイントに迫る場面では押し目買いに支えられ底堅く推移した。
(29日時点での東証REIT指数は1,740ポイント、先月末比27ポイント上昇)

■6月見通し ～緩やかな上昇～

【予想レンジ】

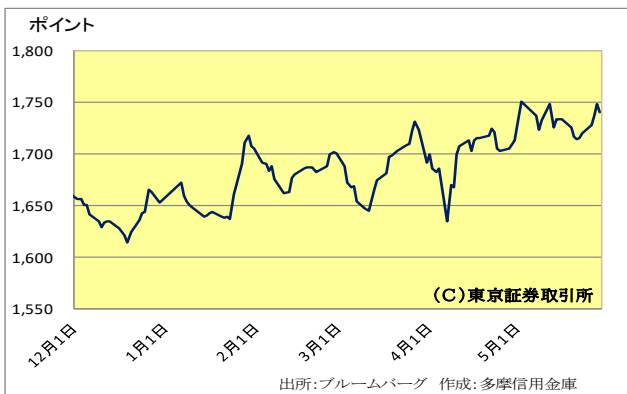
1,650ポイント

～

1,850ポイント

6月の東証REIT指数は緩やかに上昇する展開を想定する。東証REIT指数の動きを見ると2021年以降は概ね下落基調で推移しており、同期間の国内金利が上昇基調で推移していることから、金利上昇を意識した動きも大きかったと考える。ただ、2025年に入ってからは今までの動きと異なっており、金利が上昇する中でも東証REIT指数は緩やかに上昇する動きへと変化している。また、2025年の投資部門別売買状況を見ると、売買シェアの高い海外投資家が買い越していることや、株式市場同様に投資法人の自己投資口取得が東証REIT指数を支えており、需給面は悪くないと考える。オフィスビル等の不動産市況も良好な状況が継続しており、一定の売りが上値を抑える中でも、緩やかな上昇基調の推移が続くであろう。

【東証REIT指数チャート(6か月)】



【東証REIT指数チャート(5年)】



(森久保)

外国為替

■要約&ポイント

- 5月のドル円相場は上下に振れる展開
- 米国の関税政策の動向が相場を左右
- 6月のドル円相場は小幅な円高ドル安の推移を想定
- 依然として不確実性の高い米国の政策をめぐる動向に警戒

■5月の動き(1日～29日)

～上下に振れる展開～

【変動幅】

142円12銭

～

148円65銭

5月のドル円相場は、上下に振れる展開となった。貿易摩擦による米国景気の悪化懸念や大手格付け機関による米国債の格下げなどのドル安要因と、米英の貿易協定締結や米中の一時的な関税引き下げなどのドル高要因が交錯した。月末にかけては、米国の国際貿易裁判所がトランプ政権の課した多くの関税に対して差し止めを命じたことなどを背景にドルが買い戻され、円安ドル高に推移した。

(29日時点のドル円相場は144円21銭、先月末比1円14銭円安ドル高)

■6月見通し

～小幅な円高ドル安～

【予想レンジ】

138円00銭

～

148円00銭

6月のドル円相場は、小幅な円高ドル安の推移を想定する。

このところ、ドル円相場は主に米国の関税政策をめぐる動向の影響を強く受けている。足元では、米国政府が各国への追加関税適用を延期したことや、米国際貿易裁判所による関税差し止め命令などにより、貿易摩擦による景気減速懸念が後退しドル高圧力がやや強まっていると考えられる。

ただし、トランプ大統領による政策の不確実性は依然として高い。今後の関税などの行方は激しく変化する可能性があり、米国内でも財政悪化が懸念される減税法案の上院決議などを控えているため、ドル買いの動きは限定的となるだろう。また関税政策の動向などにより、米国をはじめとした国々の経済低迷への警戒が強まる場面では、リスク回避的な円買いが強まる可能性がある。

以上のことから、ドル円相場は一時的に円安ドル高が進む場面が見られても、6月を通しては小幅に円高ドル安へ推移する展開を想定する。

【ドル円チャート(6か月)】



【ドル円チャート(5年)】



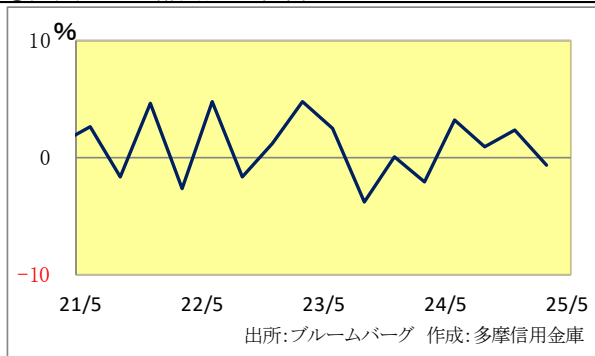
(坂本)

日米主要経済指標

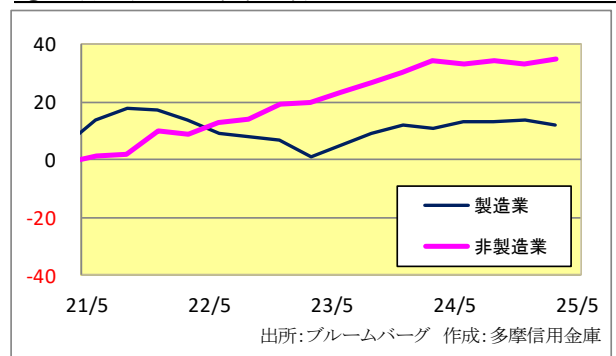
2025年5月29日 現在

(1) 国内経済指標

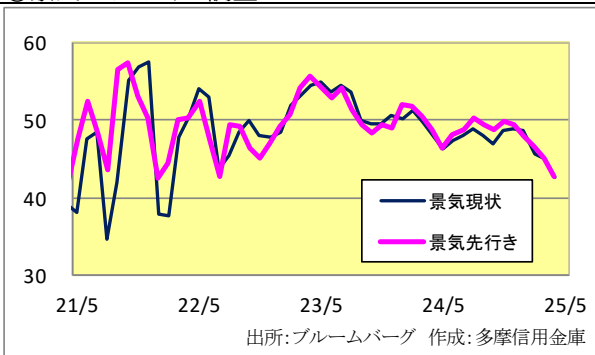
①実質GDP（前期比・年率）



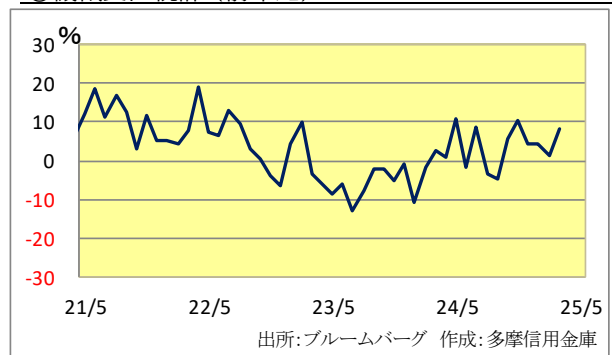
②日銀短観・大企業業況判断DI



③景気ウォッチャー調査

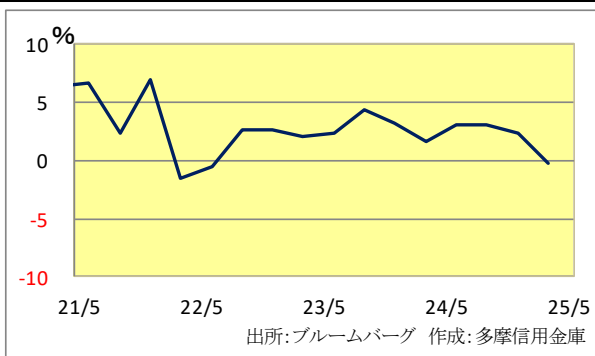


④機械受注統計（前年比）

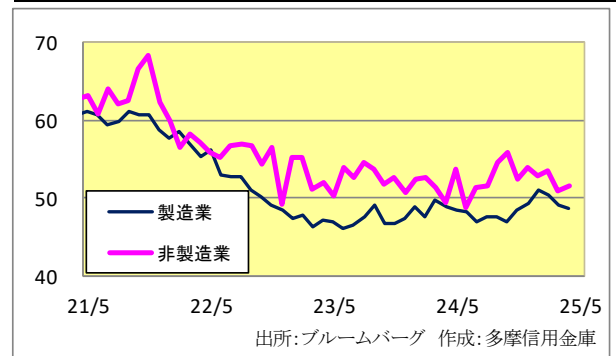


(2) 米国経済指標

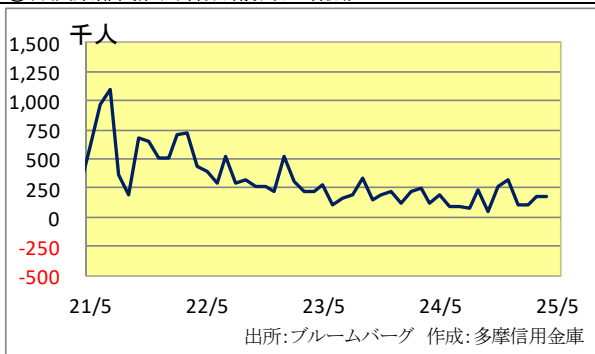
①実質GDP（前期比・年率）



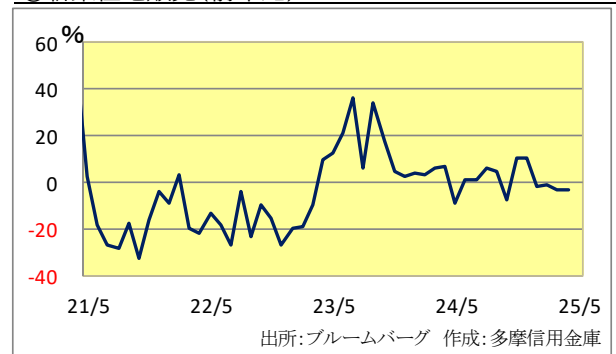
②ISM景況感指数



③非農業部門雇用者数（前月比増減）



④新築住宅販売（前年比）



ご留意事項

- ・本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- ・本資料は、信頼できると考えるデータに基づき多摩信用金庫が作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料は記載されたいかなる内容も、将来の市場変動を保証するものではありません。本資料のご利用に関してはご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも多摩信用金庫の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。
- ・本資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的著作権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。